

No.205

林業ぐんま



平成30年度 群馬県林業技能競技会（県立森林公園21世紀の森）

目次

林政情報	1
・森林ボランティア支援センターの紹介	
・県有林整備パートナー事業実施協定を締結	
・きのこ類の安全確認について	
普及コーナー	3
・ぐんまウッドクラフト展 in 群馬県庁	
・平成30年度群馬県林業技能競技会開催	
各地のたより	
（渋川）「SUBARUふれあいの森赤城」	5
でお祭りを開催	
（西部）親と子の木工広場が開催される	
（藤岡）未来を担う若手職員の育成に向けて	
・日野県有林を活用した地域課題研修	
（富岡）親と子の木工広場（富岡市）を開催	
（吾妻）作業道作設研修会を開催	
（利根沼田）「環境と森と木のまつり」を開催	
（桐生）「森林の大切さ」を子どもたちへ	
地域を担う人	9
小椋 春樹さん 相馬 千里さん	
南橋 茜さん 青柳 雅人さん	
読者からの投稿	11
富岡製糸場の建築材料について	
森の談話室	12
・地域林業の担い手を目指して	
磯村産業植林所 所長 土屋啓介さん	
林業試験場から	13
木材加工技術センター整備について	
トピックス	14
平成30年度教育情報講習会を開催	
・森林・林業を支え、みどり豊かな	
郷土群馬づくりに貢献する	15

秋

2018

群馬県林業改良普及協会

林政情報

森林ボランティア支援センターの紹介

森林ボランティア支援センターでは本県の森林ボランティア活動の充実のため、ぐんま緑の県民税を活用して様々な支援を行っています。

たとえば、「森林環境教育を行いたいのので講師を派遣してほしい。」といった要請があった場合は、ご相談いただければ、活動の内容に対応できる講師を派遣いたします。

また、森林整備活動のために必要な各種の作業器具の貸し出しも無料で行っています。主なものとしてはチェーンソー、刈り払い機、手鎌、下刈鎌、除間伐用鋸、ヘルメットなど



森林ボランティア情報誌「モリノワ」

で、このほかにも、安全防具類、伐木関連の専門的な器具類なども揃えておりますのでご利用ください。

さらに、関係する行政・技術情報や各種資料、県内のボランティア団体の活動状況などについては、専用ホームページ (<http://www.morinowapref.gunma.jp/>)、情報誌「モリノワ」、メルマガ等で情報提供しています。

また、これから活動を始めてみたいという方のための森林ボランティア体験会や、団体同士が情報交換していただく交流会、事故のない作業を行っていただくための安全講習会なども開催しています。

県有林整備パートナー事業実施協定を締結

県では、地球温暖化防止など多様な公益的機能を持つ森林の整備・保全を図るため、企業・団体の皆様からの寄付により県有林を整備する「県有林整備パートナー事業」を実施しており、株式会社ベイシアと八件目となる協定を締結しました。

株式会社ベイシアは環境保護活動として、以前からレジ袋削減、食品トレーのリサイクルなどに取り組んできました。



活動の様子

更なる活動を進めるため、新たな取り組みとして森林整備活動を計画、県有林整備パートナー事業を実施することとなり、平成二十九年七月二十六日に協定を締結しました。

協定期間は平成二十九年八月一日から平成三十九年七月三十一日までの十年間。協定林の名称を「ベイシアの森」として、川場有林内で、面積は約1.0ヘクタールを設定し、カラマツの植栽を予定しています。

なお、新入社員の研修の一環として、六月十六日に記念植樹を実施しました。

きのこ類の安全 確認について

栽培きのこ類

福島原発事故から7年以上が経過しましたが、原木きのこ栽培では現在も放射性物質の影響が続いています。

県では、生産者に対し「群馬県原木きのこの栽培管理に関する指導指針」の遵守を徹底するとともに、原木、ほだ木、きのこの各段階で厳格に検査を実施するなど、安全確保を第一に対策を進めています。

こうしたなか、高崎市、沼田市、渋川市、富岡市、中之条町、高山村、東吾妻町、みなかみ町の8市町村で出荷自粛を要請している原木乾しいたけにおいて、平成30年3月に渋川市の生産者1名、同年8月に沼田市の生産者1名の出荷自粛が解除になり、生産再開に向けた取組が本格化しました。

解除に至るまでの関係者の御尽力に敬意を表するとともに、出荷自粛ゼロを目指して今後ともこうした取組を支援します。

野生きのこ類

山野に自生している野生きのこは、放射性物質の影響を受けやすいといわれています。

で、食品の基準値である1キログラム当たり100ベクレルを超えるものを食べないようご注意ください。市町村によっては、自家消費用の食品の検査を実施していますので、確認してください。

現在、沼田市、嬭恋村、東吾妻町、高山村、安中市、長野原町、みなかみ町の7市町村では、野生きのこが出荷制限となっています。これ以外の地域でも、野生きのこを出荷・販売する場合は採取地を確認し、放射性物質検査を行い、安全を確認したうえで、適正な表示をしてください。

また、野生きのこは食中毒に注意が必要です。野生きのこはたくさん種類があり、このなかには、毒を含んでいる種類や名前が付いていない未知の種類が数多くあります。猛毒のきのこを食べて死亡する例がありますので、確実に食用と判断できないきのこは、採らない、食べない、人にあげないことで未然に事故を防止してください。

なお、群馬県林業試験場では、野生きのこの鑑定を実施しています。鑑定を依頼する際は、必ず事前に担当者に電話連絡してください。

(注) 土地所有者の許可無く野生きのこを採取した場合は、森林窃盗として処罰される場合があります。

最新の出荷制限、出荷自粛及び解除情報は県ホームページで確認できます。

○県産「きのこ(原木栽培)」「野生きのこ・山菜類」出荷制限・自粛情報

http://www.pref.gunma.jp/06/e36g_00021.html



ペニテングタケ【毒】(林業試験場提供)

住所 北群馬郡榛東村大字新井2935
電話 (027) 373-2300

普及コーナー

ぐんまウッドクラフト展 IN群馬県庁

この展示会は、県民が木の温もりや香りなど、五感で木の良さを感じ、木材利用の大切さについて考えてもらうことを目的に、群馬県ウッドクラフト作家協会が主催となり、平成30年6月13日（水）から6月18日（月）の6日間にわたり、群馬県庁1階県民ホールで開催されました。

今年は2年ぶりに会場を県庁へと戻し、新加入の引田さんを迎えた新体制で臨んだ展示会となり、常連の方から初めて来た方まで幅広い層の方にご来場いただきました。

会場には、樹種によって異なる肌触りや色合いを持つ様々な形のテーブルや椅子のほか、カトラリーやアクセサリ、子ども用の玩具まで様々な作品が揃っており、来場者はお気に入りの作品を見つけると何度も木肌の心地よさや大きさ、フィット感などを確かめているようでした。中には作品に座りながら、円になって作品に対するこだわりや製造過程について作家と語り合う来場者の姿も見られました。

また、木製玩具で遊べるキッズコーナーでは、特にコロコロツリーが一番人気で、子どもだけでなく大人も一緒に遊ぶ様子が見られ、ころころと軽やかな木の音色が来場者を

楽しませていました。

この展示会は、作家・来場者双方にとってはじまりともいえる場であり、来場者は作風の異なる数ある作品の中から、お気に入りの作家や作品を見つけることができ、作家側は直接感想や要望などを聞くことができるなど、貴重な場となっています。

ソファアールなどの大型家具に目を付けた方々の「部屋のサイズ等を確かめてまた来ます」「今家にあるものを捨ててあのソファアールに変えたい、少し値は張るけれどもそれだけの価値がある」といった今後の約束をする様子が印象的でした。

今後も県民の皆様が木材の良さ、ひいては県産木材の良さが伝えられるような展示を期待しています。

（林業振興課）



ドレッサー



キッズコーナー



腰を下ろして、一息つく来場者の様子

平成30年度 群馬県林業技能競技会が開催されました

平成30年8月11日(土)に7回目となる「群馬県林業技能競技会」が群馬県森林組合連合会の主催で開催されました。本競技会は、林業の現場で欠かせないチェーンソーの技術と安全作業意識の向上、林業の社会的地位向上、新規林業就業者数の拡大などを目的に、平成21年度から行われています。

今回は県立森林公園21世紀の森で「山の日記念21世紀の森まつり」と同時開催となりました。

競技種目は次の4種目です。

- 一、ソーチェーン着脱(バーを外し別のチェーンに早く正確に付け替える)
 - 二、丸太合わせ輪切り(固定された丸太を下から切り上げた後、上から切り合わせて一定の厚さに輪切りを行う)
 - 三、斜め切り・突っ込み切り(丸太を正方形にくり抜く、上部を斜め45度に切り落とす)
 - 四、枝払い(枝に見立てた棒を早く正確に払う)
- これらは日本伐木チャンピオンシップの競技種目を取り入れています。斜め切り・突っ込み切り競技は群馬県独自の種目です。
- 競技は、各種目の正確な技術・安全性・スピードについて採点を行い、合計得点で競い



斜め切り競技の様子

ます。

今回は8名の選手がチェーンソー技術の腕を競い合い、沢山の木くずが飛び散る迫力のある競技にカメラを向ける観客の姿が多く見られました。また、二十一世紀の森まつりオープニングセレモニーでは、桐生広域森林組合の星野さん・鈴木さんによる枝払いデモンストラクションが行われました。競技会開催により、林業の技の凄さがより多くの人に伝わったのではないかと思います。

参加選手の平均年齢は29・5歳と若手の

方々で構成されていましたが、競技状況や得点から、日々技術を磨いてきたと感じる場面が多くありました。また競技終了後には、競技内容を振り返り競技者同士が熱心に語り合う姿が印象的でした。

競技結果は次のとおりです。

優勝…藤井 元延さん「上野村森林組合」
 準優勝…近江 一郎さん「(有) 榎原愛林」
 第三位…三井田大地さん「下仁田町森林組合」
 選手の皆様、大変おつかれさまでした。



笑顔の上位入賞者!

の便り。

「SUBARUふれあいの森 赤城」でお祭りを開催

群馬県立森林公園「赤城ふれあいの森」は、国内の四輪駆動車の先駆けで県内に主力工場をもつ株式会社SUBARU（東京都渋谷区）に県内森林公園で初のネーミングライツ（施設命名権）を取得していただき、平成三十一年四月から愛称が「SUBARUふれあいの森 赤城」となりました。この森林公園は、前橋市街から車で三十分と近く、木工工作ができる「あかぎ木の家」やキャンプ場施設などがあり、森林・林業の重要性の理解を深めてもらうための施設が揃っています。

この新たな愛称となった森林公園で「第十回赤城ふれあいの森まつり」が、当施設の指定管理者である群馬県森林組合連合会が地域の市町村や林業関係団体などで実行委員会を組織し開催されました。このまつりでは、森林からの産物である間伐材で作成されたベンチや遊具等の間伐材製品の販売が



ら緑化木、苗木、木炭製品、きのこ類、家庭用刃物類、チェーンソー等の林業機械等の展示販売と地元の前橋市富士見地区からの農産物加工品等の販売や、焼きそばや焼きトウモロコシ、かき氷なども販売されていました。また、ぬり絵コンテストやミニ二鉄道の乗車コーナーも設けられ、特に、夏休み期間中であることから、あかぎ木の家での木工工作は、大変な人気があり、毎年、販売開始前から長蛇の列となり、今回も、大勢の家族連れで賑わっていました。

管内の二つの森林組合では、丸太切り体験と森のクイズを実施しました。

丸太切り体験は、両引きのノコギリを使って、二人一組で息を合わせての丸太切りを体験し、森のクイズでは、森の散策を兼ねた樹木名を当てるクイズに挑戦しました。

当日は、朝からの雨空もお昼には晴れて、来場者も楽しい一日を過ごせたと思います。

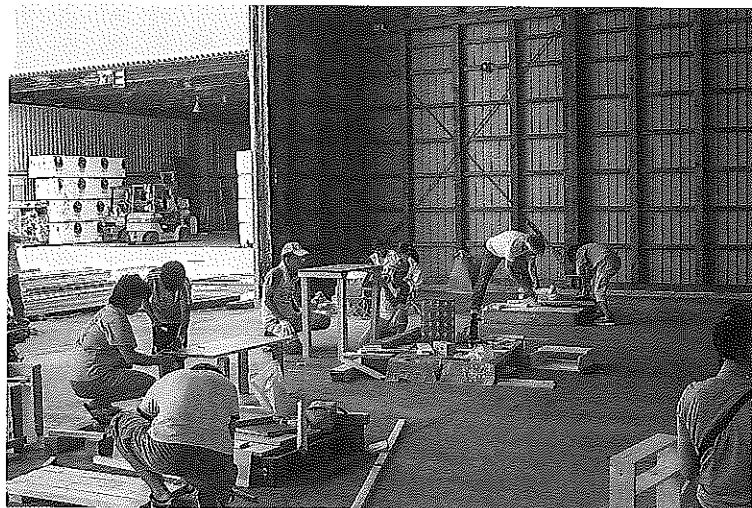


（渋川森林事務所通信員）

親子の木工広場が開催される

高崎材木商組合の主催による「親子の木工広場」が、8月4日に高崎市飯塚町の「(株)吉貞 高崎市場」を会場に行われました。連日の猛暑にもかかわらず、会場にはたくさん家族連れが集まりました。

この木工広場は、今年で42回目の開催で、大変歴史のある夏休み恒例の地域に馴染んだ行事となっています。会場では、スギの板材



参加者の様子

各地

などさまざまな大きさ・種類の木材が組合から無料で提供され、電動工具の使用はできないため、手で木材を切ったり、金槌で釘を打ったりして、それぞれのオリジナルで本棚や椅子などの木工作品を親子で次々と完成させていました。

この行事を通して、木材と触れあひながら木材の香り、ぬくもりを感じ、猛暑も少し和らいだのではないかと感じる一日でした。今後、若い世代が木材の需要者（ファン）になっていただくことを期待しています。



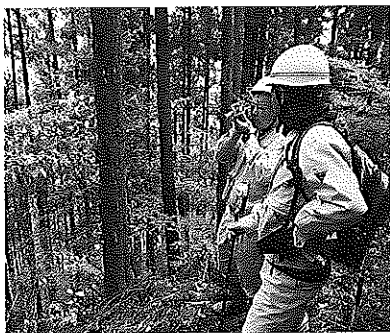
無料提供された木材

(西部環境森林事務所通信員)

未来を担う 若手職員の育成に向けて

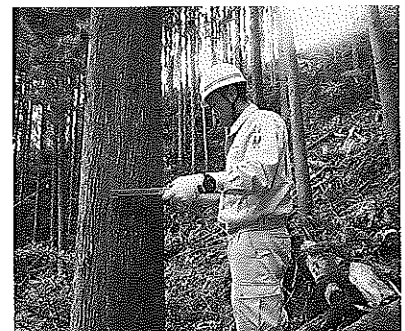
日野県有林を活用した地域課題研修
藤岡森林事務所では今後五年間で、およそ80ヘクタールの間伐を行う日野県有林の森林経営計画を策定しました。

今年度は、年度当初から早期発注に向けて動き始めたのですが、植え付けや下刈りなどの初期保育、除伐・伐捨間伐といった「育てる林業」の経験はあっても、「伐って・運んで・売る林業」を業務で経験したことがある職員は意外に少なく、プロット調査や周囲測量、データの集計から整備方針の決定、伐木から搬出までの設計・積算をするまでには、多くの課題を解決する必要があるとしました。



ハンドレベルで路線選定

特に、土質が悪く勾配も急な箇所が多いことから、基幹林道と伐採現場を結ぶ林産用の路網の整備も十分とは言えず、山土場までの距離が千メートル以上になるような現場もあり、使用する機械や搬出手段、路網の開設・改良には苦勞を要します。



プロット調査で売上げ予測

さらに近年は、植栽に携わる業務が激減したため、森林職で採用された職員でも、初期保育を含めた森林整備事業

全般の経験がない職員もいることから、藤岡森林事務所では、今回の日野県有林での間伐事業を事務所独自の地域課題と位置づけ、若手職員を中心に素材生産に必要な知識・知見・技術の習得と人材育成を目指す講義や実習を、職場内研修として実施することとしました。今年六月に開催した第一回研修では、所内若手職員を対象に、日野県有林の概要と間伐・路網整備の全体計画に関する講義と、釣り竿を使った円形プロット調査による林分データの収集実習を行いました。

今後は、境界確認やデジタルコンパスを使った周囲測量実習、林産を目的とした路網整備と作業システムのあり方検討、山土場での検知・仕分け実習などを予定しています。日野県有林での間伐事業が、本県の林業成長産業化につながる人材育成の場となるよう、普及指導員も精一杯頑張ります。

(藤岡森林事務所通信員)

の便り。

親子の木工広場 (富岡市)を開催

親子の木工広場は、親子の関係を育み、木材に直接ふれあうイベントとして、県内各地で開催されています。富岡管内では毎年3カ所で開催しており、今回は、第37回を迎える富岡市高瀬会場の開催内容を報告します。高瀬会場はJA甘楽富岡の集荷場をお借り



参加者と共に木材に集まる

建築組合が中心となり、製材された木材から参加者持参の工具により木工工作を行います。工作開始の合図により、用意された木材の山から、材を持ち出し、自前の図面から作品を作り上げます。制作の様子からは、親子で交互に取り組む姿や、高学年と低学年の兄

し、毎年300人近くの参加を得ており、今年は7月21日(土)の猛暑のさなか288人の親子が参加しました。実施は富岡木材組合、富岡建築

弟で本棚を完成する姿など、皆一生懸命に取り組む様子が見られました。木工作品は親子の共同作業の思い出とともに末永く使って頂きたいと思えます。

開催当日は、集荷場の屋根で直射

は遮られるもの、35度を超す猛暑日でしたが、熱中症や大きなケガもなく無事終了することができました。開催にあたり関係者からの挨拶を頂く中で、最近頻発する集中豪雨などの災害は、いつ発生するか分らず、山の表土を守り二酸化炭素の吸収や環境保全に貢献する健全な森林が必要であること、また、そのためには適切な森林整備が重要であり、木材利用の推進が大きく貢献する



親子が格闘する作業

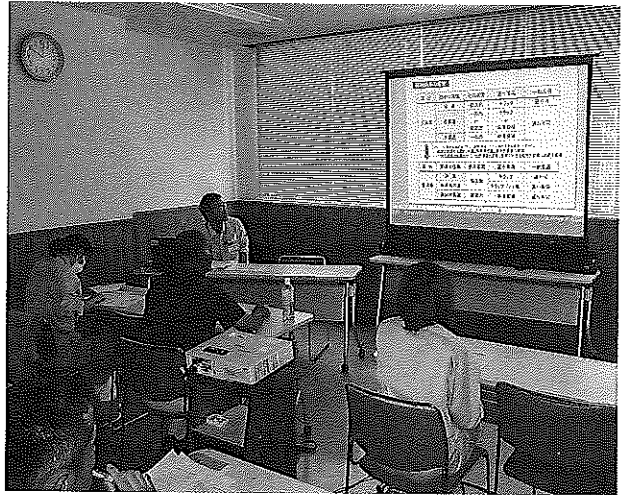
とのお話がありました。親子の木工広場は、今後も木材利用と森林への理解が深まるイベントとして継続されます。

(富岡森林事務所通信員)

作業道作設研修会を開催

県では森林・林業基本計画を定め森林整備と木材利用を推進しています。この計画において、当管内の平成三十一年の目標を、年間素材生産量70千m³、路網累計延長200千mと定め、吾妻環境森林事務所ではその目標を達成するための各種取組を行っています。その取組の一環として、今回は素材を搬出するための作業道作設について、六月十九日に研修会を開催しました。

研修の内容は、午前中は中之条合同庁舎会議室にて「作業道作設の留意点」と題して、



環境森林事務所職員による講義



現地にて現状把握と対策の検討

作業道作設の基本的な考え方や、各種種における安全かつ災害を受けにくい施工方法等について講義を行いました。

午後は現地検討会を東吾妻町内で昨年度開設した作業道について、現状の路体状況の把握とその対応策、また、被災しないための対策等を検討しました。

今回の研修は、各林業事業体により線形の設定や作設方法等に違いはあるものの、いかに使いやすい道、また、長く使える災害を受けにくい道を作るという目的においては、参加していただいた林業事業体の作業道作設技術者や各町村の担当者にとって有意義であったと思われれます。

(吾妻環境森林事務所通信員)

「環境と森と木のまつり」を開催

八月十一日、沼田市と川場村にまたがる県立森林公園「21世紀の森」の森の広場を会場に第3回山の日記念「21世紀の森まつり」と同時開催イベントとして「環境と森と木のまつり」が「環境と森と木のまつり利根沼田地区実行委員会」の主催により開催されました。

当日は、天候にも恵まれ、「21世紀の森まつり」では特別ゲストとして、歌手のサーカスが出演したこともあり、三千五百名と多数の来場者にお越しいただきました。

「環境と森と木のまつり」会場では、木製プレートに名前や絵を描いたり、しおり作り体験が行われ、子供達の人気を呼び、熱心に参加していました。また、木工工作・体験では木製品とふれあい、木材の良さを実感していただきました。また、秋の恵みでもあるきのこの



試食・販売コーナーでは美味しいきのこの堪能していました。



環境のコーナーでは温暖化防止、ゴミ減量化などのパネル展示により地球環境の保全の重要性をアピールしました。

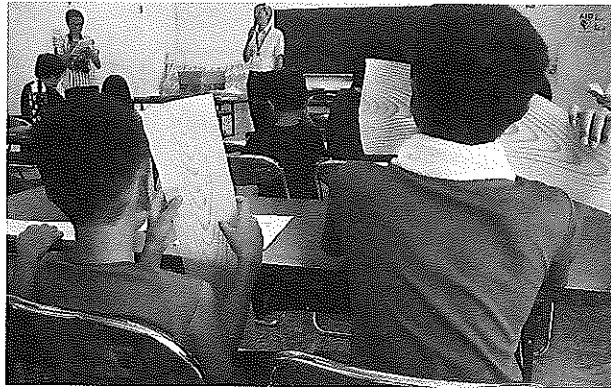
イベントでは、特別ゲストのほか地元有志による歌や踊りなどが盛大に行われました。

また、同時開催イベントのひとつとして、「チェーンソーの技を競う「林業技能競技会」が特設会場にて行われました。現場技能者が日頃伐採現場で磨いたチェーンソー技術を正確性・安全性・スピードの観点から競われる競技です。普段目に触れることのない巧みな技を興味深く観戦していました。その他、17ミス日本みどりの女神、ぐんまちゃんらの協力で「緑の募金活動」が行われました。今後森林・林業への理解を深めていけるよう有効活用させて頂きます。

(利根沼田環境森林事務所通信員)

「森林の大切さ」 を子どもたちへ

7月31日(火)、桐生市川内公民館において、川内地区青少年愛育運動協議会、川内公民館共催の子ども講座「山や木のおはなしと楽しい木工作り教室」が行われました。



経木に触れる

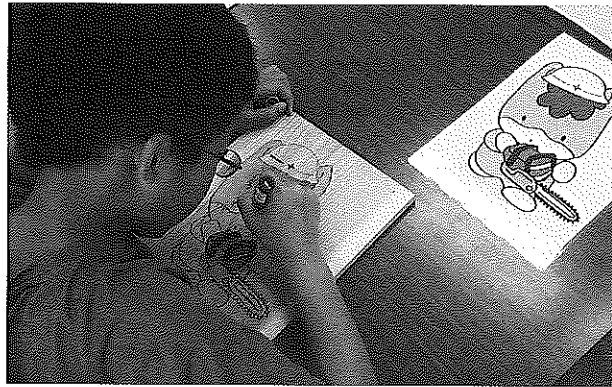
当日は川内地区内の小学校1年生から6年生までの10名が参加しました。身近にある山について、そのすばらしさや不思議

など、また山(自然)を大事に考えられるような大人への成長に繋がりたいとの開催趣旨から、「森林の大切さ」と題し、桐生森林事務所職員により森林の持つ多面的機能などについてお話をしました。

また、桐生市内の工場より経木(木材を紙のように薄く削ったもの…食品包装材)を包み、鮮

度を保つ特性がある)の提供があり、講座に取り入れられました。木は加工することにより、このような姿に変わり、このような役割もあることを学んだことと思います。

その後は、森林組合職員により、木と直接触れ合えるよう間伐材を使用したお絵かき教室を実施しました。小学生たちは皆、慣れない手つきながらも一生懸命作品作りに励んで



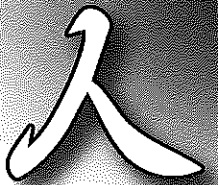
お絵かき作業中

いました。出来上がった絵は夏休みの良い思い出になるでしょう。

折しも今夏は異常気象ともいえる記録的猛暑となりました。今回の講座を通して地球温暖化の防止に影響が大きい森林の役割について、小学生たちはもちろん、我々にとっても見つけ直すためのよい機会となったのではないのでしょうか。

(桐生森林事務所通信員)

地域を担う



榆沢森林生産企業組合

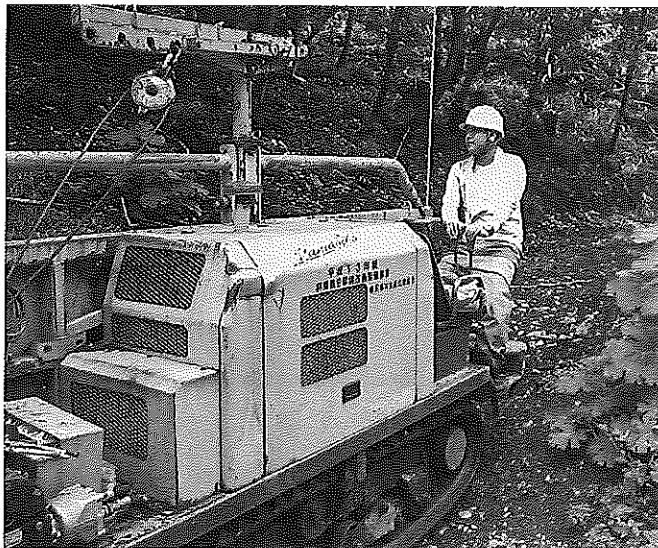
小椋 春樹

一 趣味

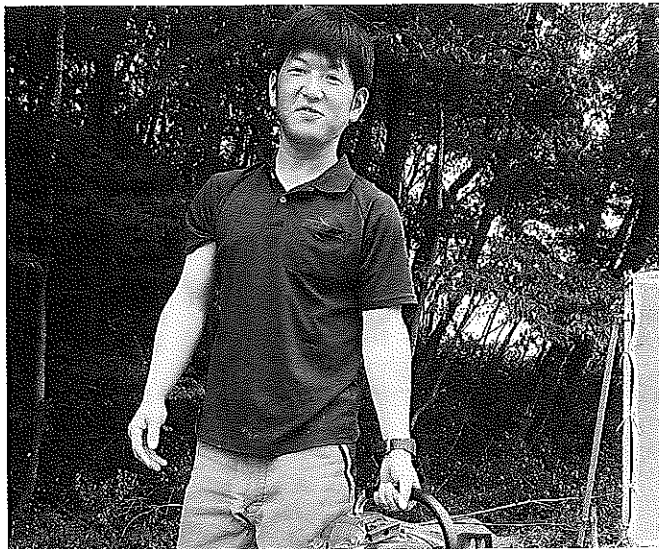
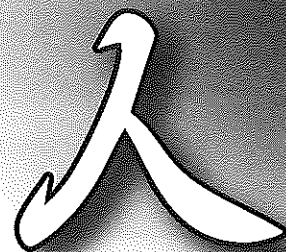
一人旅

二 今後の抱負

研修で学んだことを生かし、これからも頑張っていきたいと思えます。



地域を担う



株式会社清水インダストリー

相馬 千里

一 趣味

水泳、サッカー、ゴルフ

二 今後の抱負

群馬県一番の伐採人になって、群馬県の林業のために頑張っていけます。



利根沼田森林組合

南橋 茜

一 趣味

小物作り・読書

二 今後の抱負

林業は危険がつきものな仕事です。自分自身で災害を起こさぬ様、気を引き締めて日々の仕事に取り組んでいきたいです。



利根沼田森林組合

青柳 雅人

一 趣味

野球

二 今後の抱負

自分が心掛けていることは安全に作業することです。ケガをしない、させないを意識して同じ現場の仲間と協力しあって作業を効率よく行っていきます。

富岡製糸場は、明治五年（一八七二年）、明治政府が日本の近代化のために最初に設置した模範器械製糸場である。以前、本誌で、岩島村（現東吾妻町）から建築材料として通直な松を運んだことを紹介した。

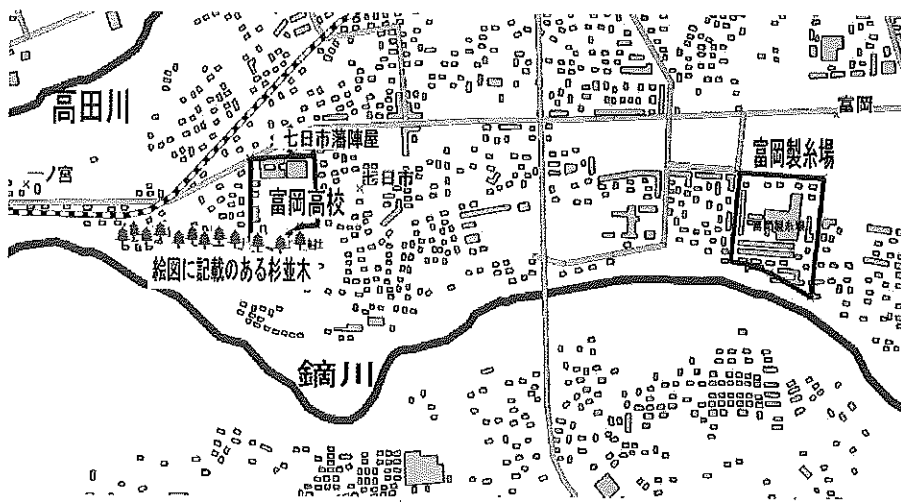
富岡製糸場のホームページに、「中心となる材木の杉は妙義山、（略）・小振りの材木は近くの山林から集めました」と記載されている。今回は、「近くの山林」とは具体的に何処なのか？それについて紹介する。

群馬県北甘楽郡史(1)によれば、「七日市藩邸外郭の周囲には、その徑（こみち）、殆ど二尺六寸（約80cm）より3尺（約90cm）に至る杉の大木生い茂り、且つ、七日市の南町より一宮に至る路傍にも、両側に杉の大木並列して夏は日光を遮り、冬は寒風を障へて行人の苦を減ぜしが、今は殆んど伐採せられ・・・略・・・三百年の昔を偲ぶ老樹も物質文明の犠牲となり・・」（略）

また、「小幡の町より福島にいたる間、道の両脇にマツの大木ありて、旅人は夏の暑さを忘れたるに、是れ亦製糸場の用材として伐り去られ小幡八景の一つを失ひたるは遺憾なる」と記されている。その松は、小幡藩により元和年間（一六一五〜二三年）に植栽(1)されたものである

富岡市の地図を示す。七日市藩陣屋（七日市藩の藩庁）の場所は、富岡高校の敷地を合

め、その約五倍程度との資料(2)があるので、富岡高校周辺に杉の大木があった。また、七日市村（明治二年）の絵図(3)には、富岡高校の南側から一ノ宮方向に、杉並木が描かれていたことから、それらの杉が伐採されたことになる。



図一富岡市の地図（2万5千分1地形図の一部をトレース・加工したもの）

妙義山は富岡製糸場建設のため、木材が伐採されたが、現在、杉が鬱蒼と生い茂り、神秘的な雰囲気醸し出している。

樹木には寿命があるため、倒れる前に伐採して利用する方が、好ましいと思われる。利用されることにより、建物の一部として生き続けている。伐採された時は、景観が失われて残念であるが、百年先を考え、伐採したら植樹する思想が広まることを願いたい。

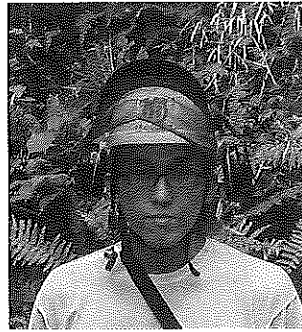
平成三十年七月、旧七日市藩陣屋正殿、中門（現在の富岡高等学校 御殿・黒門）が、国の登録有形文化財になった。（富岡市HP）
富岡製糸場建築により失われた杉並木のある森林景観を、富岡製糸場と旧七日市藩陣屋（富岡高校）をつなぐ河川沿いの道に復活できれば、富岡製糸場の魅力向上に繋がると思われる。

- (1) 群馬県北甘楽郡史（一九二八年）本多亀三
- (2) 富岡製糸場の見学や観光情報を紹介
(<http://www.dokudantomioka.jp>)
- (3) 富岡市立美術博物館所蔵（一八六九年）
七日市村絵図

（寄稿 前橋市在住 小島 正）

森の談話室

地域林業の担い手を目指して 磯村産業(株)磯村植林所 所長 土屋 啓介さん



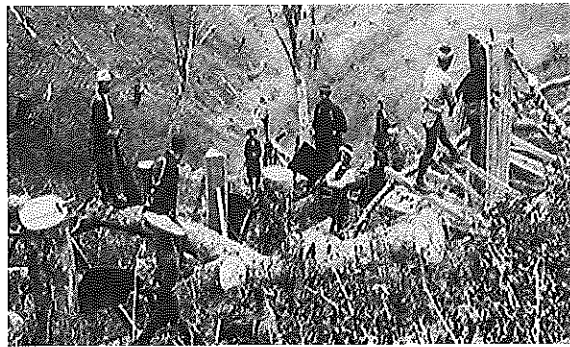
私が勤めている磯村産業(株)磯村植林所は、1910年(明治43年)の創業から高崎市西部の倉渕町(旧倉渕

村)にある所有山林約1000ヘクタール(人工林約4割)の森林整備をしています。創業当初は製炭を行い、事業所の名前にもあるように木を植えて育てることを中心に行っていました。近年では成熟してきた森林を活用するために高性能林業機械の導入を進め、作業道を整備し、素材生産(搬出間伐)を中心に作業を行っています。十年前の私の入社当時は職員の平均年齢も60歳ほどでしたが、緑の雇用事業などで新規職員の採用・教育・定着も進み現在の職員の平均年齢は35歳と大幅に若返りました。私の場合は、祖父が炭焼きをしながら当社の植林・保育に携わっていたというところから、祖父が植えて育てた森林の手入れを引き継いでいるということにもやりがいを感じています。

普段仕事をしていて思うことは、林業にお

いてもコミュニケーションが非常に重要だということだと思います。機械を導入することで効率化できる部分もありますが、人が仕事をしているということは変わらせず、失敗をすると大抵は確認や伝達のミスなどのコミュニケーション不足によるものと気付きます。伐木作業などは本人だけでなく周りにも危害を及ぼす恐れがあるので、作業中に一人一台無線機を携帯し連絡を取り合うようにしたところ、以前のように

大正時代の搬出作業の様子



前のように遠くから何度も大声でやり取りをしたり、急な斜面を上り下りして伝えに行ったりということや、伝えに行くことが面倒でそのままにしてしまうということもなくなり、連絡を取り合う機会が増え連携もスムーズにできるようになりました。

また、情報共有という意味では職場内だけでなく森林や木材を活用するということについて川上と川中・川下が今以上にお互いを知

大径木伐採の様子



手となることを目指して、林業がより魅力的な産業として発展していくよう微力ながら力を尽くして盛り上げていきたいと思っています。

り連携していくことが必要だと思います。創業当初に植林したものは百年以上経ち、建築様式の変化などで最近では売りづらい丸太になってしまっていますが、先人が苦勞して大切に育てた木なのでなんとか有効に活用したいと考えています。大径材を扱われているということで以前建具職人の方に高齢林を見ていただいたところ、「こんなに近くにこんなに良い木があるとは知らなかった」と言われ、まずは相手を知り自分を知ってもらうことが必要だと感じました。

いままでは森林整備も社有林内のみでしたが、長年優良材の生産に取り組み木材の搬出にも柔軟に対応できるという利点を活かして、今後は外にも目を向けて地域林業の担い

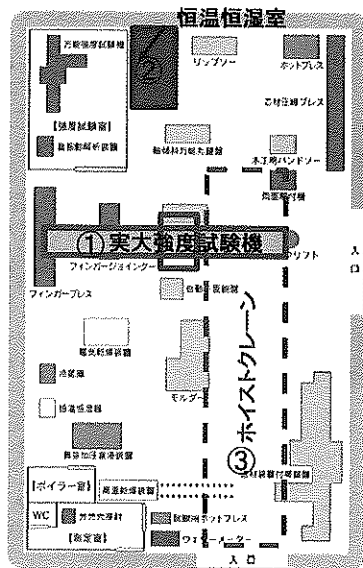
木材加工技術センター整備について

林業試験場木材加工技術センターは、平成十年四月に竣工以来、県内林業・木材産業振興のための試験研究を行ってきました。しかし、近年生産される素材丸太の大径化や木材用途の変化などにより、竣工当時に導入された試験機器だけでは、対応できない事例が見受けられてきました。そこで、近年の木材利用や需要にそくした試験研究を行うため、平成二十九年補正予算「地方創生拠点整備交付金事業」を活用し、実大強度試験機、恒温恒湿室等の施設整備を行います（図1）。

従来の実大強度試験機は最大荷重が約十トン、試験が出来る木材の長さは四メートルが限度でしたが、今回導入を予定している実大強度試験機（図2）は、最大荷重約百トン、長さ十二メートルまでの木材の強度試験を行う性能を有しています。これにより、これまで強度試験は一般的な木造住宅用部材に限られていましたが、今後は大断面集成材や木質トラスなど、大きな断面、長さのある大型木造建築物用部材の強度試験を行うことが可能になります。

また、恒温恒湿室は、その室内を高温・低温、高温・低湿等、任意の環境に設定し維持することが可能な機器です。任意の気温や湿度環境下に木材を曝し、高温高湿状態や低温状態での木材の挙動確認試験、また土木用木材や住宅土台材等の防腐性能を検証するため

○導入機器と木材加工技術センター内設置予定箇所



①実大強度試験機

公共建築物に使用される大断面集成材や木質トラスなどの強度性能評価を実施するため、実大材での強度試験を可能な、実大強度試験機を導入する。

②恒温恒湿室

使用環境に応じた温湿度条件を付与できる恒温恒湿室を設置

③ホイストクレーン設置等

①②の試験を円滑に実施するため、運搬機械、測定機器を併せて整備

図1 木材加工センター整備図

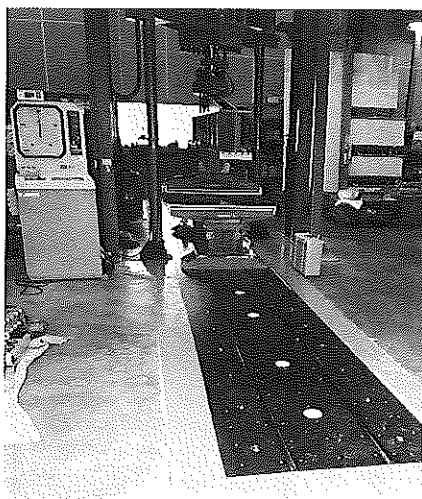


図2 実大強度試験機

の腐朽劣化促進試験は、これまで小サイズの試験体でなければ実施ができませんでしたが、今回の恒温恒湿室の導入により、木造住宅で使用する実大サイズの木材で試験を実施することが可能となります。さらに、大きな断面で長さのある大型木造建築物用部材は重量も大きいため、これらの試験材を安全に搬入し、かつ容易に試験機に設置するため、ホイストクレーンを併せて導入します。これらの整備工事を平成三十年度中に完了します。その後県内の林業、木材産業等の振興を目的として、大径材や大断面長尺の建築部材、土木用材を扱う試験研究に新たに着手するほか、県内の企業、大学等との共同研究や依頼試験を積極的に進めていく予定です。

トピックス

平成三十年度 教育情報講習会を開催

平成三十年七月十二日、渋川市内の塚越屋七兵衛において、群馬県森林土木建設協会の会員をはじめ関係者50人余りが参加し、須藤雅紀県環境森林部長、山藤浩一県森林土木建設協会会長を来賓にお迎えして、本年度の教育情報事業講習会を開催した。



あいさつする大手会長

関口功副会長の開会宣言に続き、大手治之会長は、「今年も講習会を開催できて大変うれしく思う。群馬県では、県土の3分の2が森林で森林行政には大変力を入れている。本日の各講義から多くの新しい情報を得て今後の業務に役立ててほしい。」とあいさつ。



須藤部長

来賓の須藤部長は、西日本で発生した豪雨による災害について「あらためて森林の持つ多面的な機能の重要性と、県民の生命と財産を守る事が行政の責務であるということ」を痛感した。これまでは森林の保全と管理がメインとなっていたが、人工林が育ってきたこともあり、資源の循環利用を進めていくことが重要」と語った。

山藤会長は「集中豪雨などに対応するための事業が注目されている。最新の情報を得られるこの講習会は有意義」と会の重要性を強調した。

講習会では田中林政課長が「林政課の事業について」と題して、19年度から創設予定の森林環境税及び森林環境譲与税にかかる制度

と事業についてを中心に説明した。
桑原林業振興課長は「県産材の利用拡大について」と題して、県産材利用の現状を実際に踏まえて説明した。

小山森林保全課長は「治山事業をめぐる話について」と題して、治山事業に関する年度当初予算や山地災害への対応体制について説明した。

最後に多胡緑化推進課長から「緑化推進課の事業について」と題して、県内各地で行われている森林ボランティア事業について説明があった。

おかげさまで、今年の講習会も大勢の参加をいただき、にぎやかに開催できました。お忙しい中ご出席いただいたご来賓の方々、講師の方々、並びに会員の皆様に感謝申し上げます。



山藤会長

(社)全国特定法面保護協会員

株式会社 椎坂建設

代表取締役 小林 好



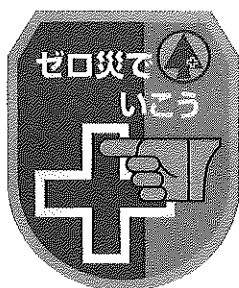
モルタル・コンクリート吹付工事・管工事・有効土壌菌工法・ほ装工事
各種緑化工事・ロックネット工事・グラウト工事・一般土木工事・各種フレーム・桐生グリーンマット

〒378-0323 群馬県沼田市利根町大原1523-2

TEL 0278-56-3407(代) FAX0278-56-2878 E-mail: yoshimi.k@shiisaka.co.jp

平成三十年十月一日 発行

手を抜くな 作業手順と 基本動作



林業・木材製造業労働災害防止協会群馬県支部

〒 379-2131 前橋市西善町 524-1

電話：027-266-8220

<http://gunma-wood.com>



緑の募金で 緑豊かな ふるさと ぐんま

公益社団法人 群馬県緑化推進委員会

前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル内

☎ 027(280)6257

URL: <http://www.g-sinrin.jp/>

災害に強い森林づくりの推進・林道・作業道事業の拡充強化
堤名板の受注・治山事業・林道事業・県有林事業・ぐんま緑の県民基金事業の歩掛公表

群馬県治山林道協会

会長 織田 沢 俊 幸

〒371-0854 前橋市大渡町1-10-7 公社総合ビル6階

TEL 027-280-6255 FAX027-255-6265

発行責任者 行 群馬県林業改良普及協会
印刷者 大 手 治
印刷株式会社

ひとりごと 酷暑の長い夏、猛烈な台風、各地で災害が続きました。群馬にもいつ大きな災害が来るか知れませんが、我が家でも倉庫に非常用品コーナーを作り備えています。私事ですが、今号をもって編集を交代します。日頃のご愛読に感謝しますとともに、引き続きのご愛読をお願い致します。

(K.A)